



イベント

八月十五日「日本の無条件降伏79周年」記念活動

8月15日前、日本の無条件降伏79周年を記念するイベントが当館で行った。南京大虐殺生存者の子孫代表、南京の青年代表、大学生ボランティア代表、雲南省山間部の青年代表など50人が参加した。参加者全員が映画『降伏へのカウントダウン』を見た後、抗日戦争元兵士たちの手形の壁のところで、勝利を表す巨大な「V」の形をしたパネルに手形を押した。

南京大虐殺の生存者・夏淑琴の曾孫である李玉翰さんは「歴史の悲惨な記憶を忘れてはならない。生存者の子孫として、南京大虐殺の歴史の記憶を継承し、戦争に反対し、平和を大切にする役割を果たしたい」と語った。



第二回若手研究者南京大虐殺史シンポジウムが開催

8月9日、南京で「新しい史料と新ビジョン——第二回若手研究者南京大虐殺史シンポジウム」が開催された。国内外20の大学から30名近くの若手研究者が参加し、南京大虐殺、日本の中国侵略戦争、国家追悼式、戦後の調査と裁判、傀儡政府研究などをテーマに学術討論を交わした。



心のケア

医療関係者と共に生存者を訪問

8月17日、記念館は南京侵華日軍被害者援助協会、江蘇省人民病院のスタッフと共に生存者の蒯桂蘭さん、馬庭宝さん、王義隆さんの自宅を訪問した。医者が生存者の血圧、血糖値を測定し、最近の健康状態を問診した。

2018年から、この医療サービスを定期的に生存者に提供し始めた。また、生存者の健康を守るために、病院で治療を受ける際に優先窓口などの利用もできるようになっている。



受け継ぐ

アイリス・チャン氏を記念するビデオ作品『あの夏に戻る』を公開

1995年夏、中国系アメリカ人作家のアイリス・チャン氏は、南京大虐殺の歴史の真実を明らかにするために南京を訪れ、南京でビデオカメラを回して貴重な映像を撮り残した。氏は南京大虐殺の史料を丹念に探し、多くの生存者にインタビューを行い、帰国後に膨大な取材メモと録音を整理し、『ザ・レイプ・オブ・南京』を執筆した。同書は南京大虐殺60周年にあたる1997年に出版され、第二次世界大戦中に日本軍が南京で行った残虐行為を暴き出し、欧米諸国では強い反響を呼んだ。

今年はアイリス・チャン氏の20年祭、記念館は『あの夏に戻る』と題したビデオ作品を作って公開することになった。

